

] 10 5r •

KAWASAKI STEEL GIHO

Vol.12 (1980) No.4

* Si (O9x * } M / o ± i Å å ß i ± i © Ÿ Ç o ! b0 4

低 Si 系高低压一体型タービンローターシャフト材の製造

Manufacture of Low Si Type HP-LP Single Turbine Rotor Shaft

飯田義治* 朝生一夫**

和中宏樹*** 小石想一****
Hiroshige Wanaka Soichi Koishi

内田清***** 狩野征明*****
Kintomo Nita Seimou Konno

Shinji Sato

Yoshifumi Nakano

Synopsis:

An HP-LP single shaft for a turbine rotor must meet requirements such as low susceptibility to temper

低 Si 系高低圧一体型タービンローターシャフト材の製造

Manufacture of Low Si Type HP-LP Single Turbine Rotor Shaft

飯田義治*
Yoshiharu Iida

朝生一夫**
Kazuo Asoh

和中宏樹***
Hiroshige Wanaka

小石想一****
Soichi Koishi

内田清*****
Kiyoshi Uchida

狩野征明*****
Seimei Karino

佐藤信二***** 中野善文*****
Shinji Sato Yoshifumi Nakano

Synopsis:

An HP-LP single shaft for a turbine rotor must meet requirements such as low susceptibility to temper embrittlement, superior high-temperature properties in the LP portion, and good toughness in the HP portion.

トでよく知られているように、その含有量を少な
くすすこすすと、より鋼塊の偏析を減少させ、耐熱も

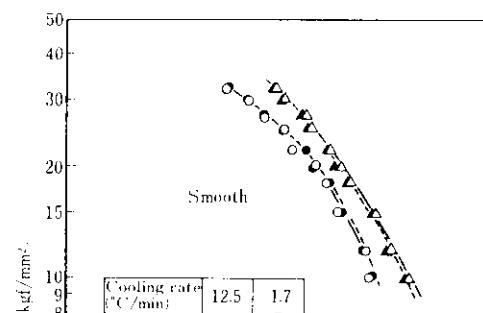
と熱間圧延にて製造した。焼ならしを行った後
840°Cにて保持し、その後の焼成温度を820°Cに

高温強度、特にクリープ破断強度を低下させると
考えられている。このような Si の効果のために、

(300φmm 水冷中心部相当)までの 4 水準とし各々
610°C×20h の焼もどしを付与する熱処理を行った。

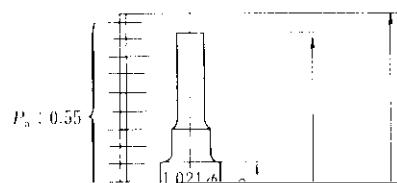
シャフトに採用することにし、強度(高温強度)補償を考慮して若干のCr増量を行うこととした。

目標化学成分については、Table 2 に示すようにC鋼をベースに、強度に若干の余裕があることおよび韌性の向上を考慮しC含有量を0.25%に設定した。



およびAsの低い鋼塊が得られる。

今回のローターシャフト素材は、上記プロセスにより製造したが、最近BOFでの脱P技術が向上しEFを介在させることなく0.005%以下のP-Sが得られるようになった。この技術については後



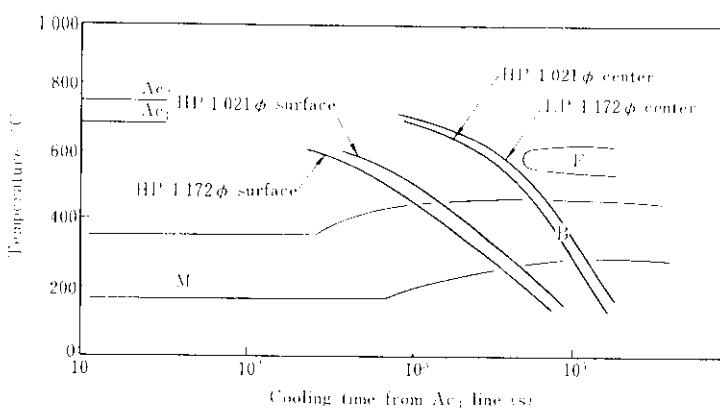


Fig.7 CCT curves corresponding to cooling conditions as shown in Fig.6

磁化により全方向の表層部欠陥が検出できる方式とした。

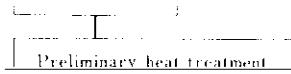
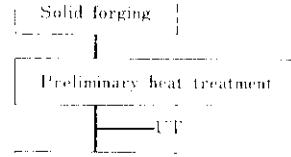
④ VTR 装置による中心孔部欠陥検出方法

器の前進位置および回転角度を UT 探傷図形または中心孔表面指示画像に重畳させて録画できるような新しい信号処理を採用した。

この中心孔探傷装置により中心孔径 60~150mm,



可能となった。中心孔 UT 探傷状況を、Photo.1 に示す。



(H : 本体高さ, D : 本体直径) が 1.1 のものを採用する。鍛造については、細袖本体の形状を $\phi 114$

× 1.1 とした。その後 $615^{\circ}\text{C} \times 31\text{h}$ 保持・冷却の

わせて確認するため、荒押段階で内部性状を UT により調査した。前熱処理は、脱水素処理と合わせて 2 回焼ならしを実施し整粒および細粒化をはかりその後焼もどしとした。2 回目の前熱処理は、

Photo. 2 に示す。



Table 3 Results of tensile and impact tests

No.	Material	Tensile test		Impact test	
		Yield strength (kg/mm ²)	Tensile strength (kg/mm ²)	Impact value (kg)	Impact value (kg)
1	1	100	100	100	100
2	2	100	100	100	100
3	3	100	100	100	100
4	4	100	100	100	100
5	5	100	100	100	100
6	6	100	100	100	100
7	7	100	100	100	100
8	8	100	100	100	100
9	9	100	100	100	100
10	10	100	100	100	100
11	11	100	100	100	100
12	12	100	100	100	100
13	13	100	100	100	100
14	14	100	100	100	100
15	15	100	100	100	100
16	16	100	100	100	100
17	17	100	100	100	100
18	18	100	100	100	100
19	19	100	100	100	100
20	20	100	100	100	100
21	21	100	100	100	100
22	22	100	100	100	100
23	23	100	100	100	100
24	24	100	100	100	100
25	25	100	100	100	100
26	26	100	100	100	100
27	27	100	100	100	100
28	28	100	100	100	100
29	29	100	100	100	100
30	30	100	100	100	100
31	31	100	100	100	100
32	32	100	100	100	100
33	33	100	100	100	100
34	34	100	100	100	100
35	35	100	100	100	100
36	36	100	100	100	100
37	37	100	100	100	100
38	38	100	100	100	100
39	39	100	100	100	100
40	40	100	100	100	100
41	41	100	100	100	100
42	42	100	100	100	100
43	43	100	100	100	100
44	44	100	100	100	100
45	45	100	100	100	100
46	46	100	100	100	100
47	47	100	100	100	100
48	48	100	100	100	100
49	49	100	100	100	100
50	50	100	100	100	100
51	51	100	100	100	100
52	52	100	100	100	100
53	53	100	100	100	100
54	54	100	100	100	100
55	55	100	100	100	100
56	56	100	100	100	100
57	57	100	100	100	100
58	58	100	100	100	100
59	59	100	100	100	100
60	60	100	100	100	100
61	61	100	100	100	100
62	62	100	100	100	100
63	63	100	100	100	100
64	64	100	100	100	100
65	65	100	100	100	100
66	66	100	100	100	100
67	67	100	100	100	100
68	68	100	100	100	100
69	69	100	100	100	100
70	70	100	100	100	100
71	71	100	100	100	100
72	72	100	100	100	100
73	73	100	100	100	100
74	74	100	100	100	100
75	75	100	100	100	100
76	76	100	100	100	100
77	77	100	100	100	100
78	78	100	100	100	100
79	79	100	100	100	100
80	80	100	100	100	100
81	81	100	100	100	100
82	82	100	100	100	100
83	83	100	100	100	100
84	84	100	100	100	100
85	85	100	100	100	100
86	86	100	100	100	100
87	87	100	100	100	100
88	88	100	100	100	100
89	89	100	100	100	100
90	90	100	100	100	100
91	91	100	100	100	100
92	92	100	100	100	100
93	93	100	100	100	100
94	94	100	100	100	100
95	95	100	100	100	100
96	96	100	100	100	100
97	97	100	100	100	100
98	98	100	100	100	100
99	99	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100



Fig. 10 Reduction factors for shear toughness and temperatures

度の違いに関連すると考えられ⁶⁾、Photo. 3 に示すクリープ破断後の組織に見られるように焼入
れ温度が高くまた焼入れ冷却速度の小さいほど微
細な化物が均一に分散する。これに相反する方

りの関係を整理した。その結果を Fig. 13 に示す。
両者間には必ずしも明瞭な相関があるとはいえないが、切欠強化から切欠弱化への移行は、約 20%

クリープ延性の指標として通常用いられる破断伸び、
絞りと切欠破断強度との間には何らかの関係があ
る。

は、絞りは伸びと異なり破断位置の影響を受けにくく、バラツキが小さいためで、絞り約 20% は、

次に今回のローター材は、真空 C 脱酸により低 Si 化を施したものであるが、事前検討においてクリープ破断強度には高 Si 材と差がないことを確認した。クリープ破断特性を Si 量で整理した結果を

め、クリープ破断強度の低下をもたらさなかったものと考えられる。

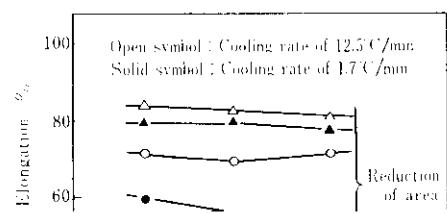
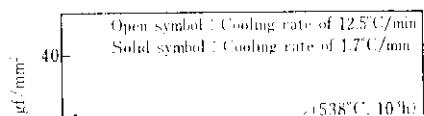


Table 5 Impurities in products recently produced

設定も偏析低減に効果があったと考えられる。

採用 (Si の低減), BOF-LBE-真空鋳造プロセス

減などによるほか、適正な鍛錬が行われたと判断できる。的面で多大の御助言を頂いた。ここに謝意を表します。

終わりに当 HP-LP 1 体型ローターシャフトの

参考文献

- 1) 飯田, 山本, 岩井, 江本, 離波: 鉄と鋼, 64 (1978) 4, S 186
- 2) 朝生, 和中, 飯田, 内田, 狩野, 山野辺, 馬場: 鉄と鋼, 65 (1979) 4, S 186
- 3) 飯田, 山本, 松野, 山浦, 朝生: 川崎製鉄技報, 12 (1980) 1, 27
- 4) 森田, 入谷, 宇野: 鉄と鋼, 64 (1978) 4, S 249
- 5) H. D. Greenberg, et al.: Convegno Internazionale della Fucinatura, Terni, Italien, (May, 1970)
- 6) 熊田, 上屋: 学振耐熱金属材料委員会研究報告, 7 (1966) 1
- 7) J. Comon, J. Delorme, P. Bastien: The 6th Int. Forgemaners Meeting, (1972)
- 8) 松野, 岡野, 西村, 山本, 朝生: 鉄と鋼, 65 (1979) 4, S 136